

質疑応答まとめ

No.	質問	回答	種類
1	2023年1月10日（火）0:00～1月23日（月）0:00期間の機能制限に関して、利用可能な4つのメソッドについて、どのようなことができるのか詳しくお教えいただけますでしょうか。また、検索・表示された書誌データのローカルサーバへのダウンロードは制限されていないと理解しましたが、その認識で問題ありませんでしょうか。	2023年1月10日（火）0:00～1月23日（月）0:00の期間は、図書・雑誌の書誌・所蔵データ、著者名・統一書名典拠データ、参加組織情報データ、RECONデータを、検索・絞り込み・表示することができます。NACSIS-CATでは、表示したデータのローカルサーバへのダウンロードについて制限を設けておりません。	CAT
2	大学図書館システムに登録されている電子資料の情報を、新CAT（OCLC）に登録できるのでしょうか？	今回のシステムリプレイスでは、現行運用の変更を想定していません。そのため、新NACSIS-CAT/ILLでも現行の運用に沿った電子資料の登録は可能です。同時に今後に向けては、「共同利用システム」を前提とした運用の整理が必要と考えます。	CAT
3	CAT再開後は特に利用制限等を設けないご予定でしょうか？停止中にLocal作成された書誌の追加・更新などが通常時より多くなりそうな気がしますが。	現時点では、再開後の利用制限は想定していません。今後状況が変わる場合は、新NACSIS-CAT/ILLのページ（ https://contents.nii.ac.jp/korekara/libsysnw/catill ）でお知らせします。	CAT
4	ローカルで作成した書誌を一括でアップロードする機能を使ったことがなく、再開後にすぐ処理をするとタイミングによっては重複書誌を作成してしまうのでは、と不安です。気をつけた方がよいことや注意点・アドバイス等ありますでしょうか？	ローカルシステムの機能・操作等の状況は、各システムによって異なりますので、お使いのシステムベンダーへご確認ください。	CAT
5	コーディングマニュアルの改訂はあるのでしょうか？	今回のシステムリプレイスでは、現行運用の変更を想定しないので、コーディングマニュアルの改訂はありません。今後の動きとしては、第33回これからの学術情報システム構築検討委員会（資料No. 3-4）（ https://doi.org/10.20736/0002000516 ）で審議のとおり、委員会の検討スケジュールにあわせた日本目録規則2018年版（NCR2018）の適用に向けた改訂等を検討する必要があると考えます。	CAT
6	オプションサービス「CAT自動登録/夜間サーバ」の停止期間が「3/31」までとスライドに記載されていたかと思いますが、こちらは新規の利用申し込みの停止期間ということでしょうか？現在、図書館システム側の夜間自動更新機能でローカルからNACSIS-CATに所蔵データをアップロードしている場合、自動更新ができないのはCAT停止期間のみと考えれば大丈夫でしょうか？	オプションサービス「CAT自動登録/夜間サーバ」の停止期間中は、新規申込みだけでなく、現在お使いの自動更新もご使用になれません。	CAT
7	・ILL停止につきまして、当該期間内に処理する依頼・受付について相殺処理をすることはできるでしょうか（遡及入力等にて対応することはできるでしょうか）。 ・遡及入力が可能な場合、1月31日中にNACSIS-ILL上で処理するのは難しいと思います。実際には1月中にやりとりしたILLでも、2月中に遡及入力することは可能でしょうか。（各大学の会計規定によっては不可でしょうか） ・1月中のILL処理を料金相殺したい場合、実際には1月中のILLですが、2月にILLデータのやり取りのみ入力して料金相殺にのせるという処理なら可能でしょうか？(大学会計には怒られそうですが)	事前に検討いたしましたが、①各館システムの実装によって過去日の入力ができない、②相殺処理と実際の会計処理などの二重会計のリスクがあると考えうるため、NIIとしては、遡及入力は推奨できないと考えます。	ILL

質疑応答まとめ

No.	質問	回答	種類
8	ILL停止期間にILLレコードが宙に浮いた状態を避けたいのですが、どのようにすればよいでしょうか。約1週間前にはILLサービスステータスを不可としてもよろしいでしょうか。	ILL停止期間に向けた運用につきましては、各館の手順に合わせて適宜ご調整をいただければと存じます。	ILL
9	NACSIS-ILLにおいて処理途中のデータ（発送中・処理中のデータなど）につきましては、1月23日（月）0:00時点でのデータが1月31日（火）9:00以降そのまま反映されると考えてよろしいでしょうか。	はい。1月23日（月）0:00時点でのデータが1月31日（火）9:00以降そのまま反映されます。	ILL
10	「メール等でILL受付できる場合」は、相殺外の処理、ということになりますか？なるべく協力したいと考えていますが、受付した後どうしたらよいのかイメージがつかめておらず、依頼する方もやりにくいのではないかと思います。	「メール等でILL受付できる場合」は、相殺外の処理ということになります。 ILLの運用方法については、各館の手順があるため、NIIからご提示することが難しいと考えます。	ILL
11	・停止期間中にメール等でILL受付できる場合、参加組織情報で表明できるといように思います。CiNii Booksで表示されることを考えると、1/7?までに更新しておく必要があるのでしょうか。 ・参加組織情報の更新はいつまで可能でしょうか。（書誌の検索・表示と同じく、1月23日（月）0:00まででしょうか）	参加組織情報（MEMBER）は、2023年1月10日（火）0:00までに更新をお願いします。CiNii Booksは、1月15日（日）に1月10日（火）0:00までに更新されたデータを取り込みます。	MEMBER
12	「電子リソースデータの共有」は、CAT/ILLのように、「ILL依頼画面で電子リソース検索でタイトルを同一→ライセンス情報を参照しつつ契約館を設定→ILL申込」となることを期待していました。直接ILL依頼ができないまでも、契約館を見つけることができるだけでも、助かると思います。現在の方向性では、「契約していそうな大学の電子リソースリストを1大学ごとに確認する」という現在のやり方に加えて、ライセンス情報が確認できる可能性があるという程度かと思いますが、本当にこれが当初から想定したものなのでしょうか。電子リソースデータ共有で指定した自大学の契約情報をCATシステムに連携できればありがたいです。	貴重なご意見をいただき、ありがとうございます。 各館の契約情報を共同利用システムに共有し、印刷体・電子リソースの区別なくILLなどで相互利用が可能となることは、「統合的発見環境」として考える一つの姿であると考えます。 いただいたご意見に近づくように、今後も、調整を進めてまいります。	電子
13	・よく分かってなくて申し訳ないですが、電子リソースデータ共有サービスは、図書館システムベンダー側で各館の電子リソース管理システムを作り、それと連動して現在のNACSIS-CATのように共有データを更新できる(CATのような)というものですか？ ・名古屋大学さまに連動した質問ですが、電子ジャーナルの検索、管理などがCATで可能という理解で良いのでしょうか。実際に本文提供はJUSTIS会員になると可能という理解で良いのでしょうか。	電子リソースデータ共有サービスは、現在のところ、電子リソースの管理や検索等に必要データを、NIIがまとめて取得し、各館に提供して、ローカルで使用いただく形のサービスです。各館が所持している電子リソースのデータを集約するような機能については、今後の検討課題といたし存じます。 また、電子リソース本文は以前と変わらず、各大学が購入・契約するものであり、それはJUSTICE会員館も同様です。今回、JUSTICE会員館限定で共有するものはライセンス情報であり、JUSTICE提案（出版社からJUSTICEに対して提案される電子リソースの契約条件）を基にした、資料の利用条件等です。	電子
14	電子リソースデータ共有サービスは概念や仕組みは理解できた（つもり）なのですが、ローカル（図書館）でどういったことができるのかが、どういう風に活用できるのかなかなかイメージが思い浮かびません。すでにどこか導入している大学のGood Praciceみたいなものはあるのでしょうか？	まだ参考となる例はありません。大学の活用事例などがありましたら、電子リソースデータ共有サービスのページ（ https://contents.nii.ac.jp/korekara/libsysnw/e-resources ）でお知らせします。	電子

質疑応答まとめ

No.	質問	回答	種類
15	<p>■スライド14について</p> <p>JUSTICEだけではあまり意味がないと考えています。</p> <p>JUSTICE提案以外の、現在ご協力いただける提供元は、具体的に何社あるのでしょうか？</p>	<p>現在調整を進めているのは、JUSTICEからの提供データですが、すでに運用を数年行っているERDB-JPのタイトルリストや、各社の電子ブックのメタデータなど、多様な種類のデータが充実するよう、今後調整を進めてまいります。電子ブックについて、現在弊所で調整しております提供元は、紀伊國屋書店、丸善雄松堂、OpenBDですが、その他複数社にヒアリング等を進めていますので、最新情報は電子リソースデータ共有サービスのページ</p> <p>(https://contents.nii.ac.jp/korekara/libsysnw/e-resources) でお知らせします。</p>	電子
16	<p>リゾルバやWSDが導入済の機関では、電子のタイトルリストや代表的な電子ブックはILS OPACやWSDで参照可能かと思えますので（ライセンス情報云々はありますが）、その意味でAlma導入はリゾルバ/WSDを有しない機関に大きく刺さるという感じですか？</p>	<p>電子リソースデータ共有サービスのデータは、リンクリゾルバやウェブスケールディスカバリ等を導入していない機関の方にも使っていただけたらと考えています。また、それらを導入している機関も、ライセンス情報の管理に役立てていただくことができると考えます。</p>	電子